

(2) 電子黒板の活用上の留意点

電子黒板は、情報を伝え合うための一つのツールであり、決して万能ではない。使い方次第では効果は薄れてしまう。電子黒板の短所を理解した上で、今後も効果的な活用に努めていくことが大切である。

以下に、今年度電子黒板の活用を通して、見えてきた電子黒板の短所と活用上の留意点を示す。

1 画面は意外に小さい

本校の電子黒板は50インチではあるが、教室に置いた場合は画面が小さく見え、そこに映す文字や映像も意外に小さくなってしまう。ノートPCで作成する文書では、通常10.5ポイントで作成することが多い。しかし、そのままの状態でも電子黒板に映し出すとかなり字が小さくなり、特に後ろに座っている生徒にとっては見えにくくなってしまふ。また、画面に表示できる文字数にも限りがあり、長文の提示には適さない。

<留意点>

- ・文字数は少なくし、文字の大きさも最低60ポイント以上に設定する。また、見えにくいフォントや色は避ける。
- ・線の太さや色にも配慮し、はっきりマークするようにする。
- ・場合によっては生徒たちを電子黒板の近くに集まらせることも必要である。
- ・画像はあらかじめ解像度を小さくしてしまうと、電子黒板で拡大して提示するとき画質が荒くなってしまふことにある。データが大きくなってしまふが、解像度の縮小には留意する。

2 文字の手書きは苦手である

電子ペンを使って画面に文字を書くとき、既存の黒板と同じように上手には書けない。これは電子黒板の特性上、画面端にある上下左右のセンサーによって感知するため、やや反応が鈍いためである。

<留意点>

- ・文字を手書きするとき、文字数を減らし、重要語句や要点のみの記入にとどめる。
- ・パワーポイントの教材のときは、あらかじめ文字を入力し、それを提示していくようにする。
- ・比較的簡単な文字や線を書くときは「インテリペン」の機能を使う。

3 光の反射で見づらい

プラズマディスプレイは光の写り込みが大きい。時には蛍光灯の光さえ反射し、見づらいこともある。

<留意点>

- ・光の写り込みが最小限にとどまるような設置場所の位置を確認し、照明を消したり、カーテンを閉めたりするなどの配慮を行う。

4 「既存の黒板と電子黒板」との併用を図る

1時間のうちのほとんどを電子黒板に頼ってしまうと、逆に生徒の集中力を欠いてしまう傾向がある。また、まとめをするときも電子黒板だけだと、ノートに何も書かずに1時間が終わってしまうことになりかねない。

<留意点>

・既存の黒板の長所を生かし、電子黒板と組み合わせて活用する。また、電子黒板の特長を生かし、視覚的な効果が上がる部分などを中心に電子黒板を活用する。

5 「実物の教材と電子黒板」との併用を図る

電子黒板の映像は実物とは若干色が違うこともある。実物の教材提示が一番であるが、それがかなわないときなどは電子黒板で映し出した視覚効果は大きい。

<留意点>

・実物の教材と電子黒板の使い分けをうまく行う。

6 操作に時間をかけない

操作に戸惑って時間がかかってしまうと、生徒の興味・関心が大きく減退してしまう。

<留意点>

・確実な操作になるよう日頃から何度も練習し、トラブルの未然防止に努めておくことが必要である。

7 電子黒板に合ったデジタルコンテンツが少ない

インターネット上には様々なコンテンツがあり、授業で活用したいと思うものも多い。しかし、そのコンテンツが電子黒板の画面を意識して作られたものではないため、電子黒板に映し出したときに小さく見づらいものになってしまう。

<留意点>

- ・優良なデジタルコンテンツを収集する。
- ・デジタルコンテンツを自作する。
- ・教師間で作成したデジタルコンテンツを共有化し、互いに活用を生かす。